

2023年6月9日

各位

会社名 株式会社 g u m i  
 代表者名 代表取締役社長 川 本 寛 之  
 (コード番号: 3903 東証プライム市場)  
 問合せ先 取締役 本 吉 誠  
 (TEL. 03-5358-5322)

## 2023年4月期連結及び個別業績と前期実績値の差異に関するお知らせ

当社は、2023年4月期連結及び個別業績と前期実績との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

### 記

#### 1. 連結業績と前期実績の差異

##### (1) 2023年4月期連結業績と前期実績の差異

(2022年5月1日～2023年4月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属 する当期純利益	1株当たり 当期純利益
前期実績(A)	百万円 18,942	百万円 △2,262	百万円 △3,890	百万円 △6,273	円銭 △214.07
当期実績(B)	16,009	447	△19	445	13.83
増減額(B-A)	△2,932	+2,709	+3,870	+6,719	—
増減率(%)	△15.5%	—	—	—	—

##### (2) 差異の理由

差異の詳細については、以下に記載のとおりです。

###### ① 売上高について

既存タイトルについては、前連結会計年度の期中に配信を開始した「乃木坂のフラクタル」及び「ラグナドール 妖しき皇帝と終焉の夜叉姫」の通期にわたる売上寄与があったものの、その他主力タイトルにおいて配信期間の経過により売上が減少したこと、加えて当連結会計年度に配信を予定していた「アスタータタリクス」に関し、配信後の垂直的な立ち上げを図るべくプロモーション計画の再策定を行ったこと等に伴い配信が延期されたことから、売上高は前期実績を2,932百万円下回り、16,009百万円となりました。

###### ② 営業利益について

開発・運用体制の適正化による人件費及び外注費の減少や、費用対効果を重視したプロモーションの実施による広告宣伝費の減少に加え、複数の受託タイトルを開発ポートフォリオに組み入れる等の取り組みを行った結果、営業利益は前期実績を2,709百万円上回り、447百万円となりました。

###### ③ 経常利益について

営業利益が447百万円となったことに加え、当社の持分法適用会社であるVR FUND, L.P. が保有する株式を売却したこと等に伴う持分法による投資利益、当社及び当社の連結子会社である株式会社 gumi Cryptosにて保有する暗号資産の時価下落に伴う暗号資産評価損、及びその他営業外損益を勘案した結果、経常利益は前期実績を3,870百万円上回り、△19百万円となりました。

④ 親会社株主に帰属する当期純利益について

経常利益が△19百万円となったことに加え、当社の連結子会社である Tokyo XR Startups 株式会社が保有するカバー株式会社の普通株式の一部売出しに伴う投資有価証券売却益、当社の連結子会社である株式会社 gumi ventures が運営するファンドにて保有する一部有価証券の減損に伴う投資有価証券評価損及び関係会社株式評価損、その他特別損益、法人税、住民税及び事業税、及び非支配株主に帰属する当期純損益の計上を勘案した結果、親会社株主に帰属する当期純利益は前期実績を 6,719 百万円上回り、445 百万円となりました。

2. 個別業績と前期実績の差異

(1) 2023 年 4 月期個別業績と前期実績の差異

(2022 年 5 月 1 日～2023 年 4 月 30 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前期実績 (A)	百万円 18,764	百万円 △2,837	百万円 △3,136	百万円 △5,383	円 銭 △183.68
当期実績 (B)	15,899	171	811	862	26.74
増減額 (B-A)	△2,864	+3,009	+3,947	+6,245	—
増減率 (%)	△15.3%	—	—	—	—

(2) 差異の理由

差異の詳細については、以下に記載のとおりです。

① 売上高について

既存タイトルについては、前連結会計年度の期中に配信を開始した「乃木坂のフラクタル」及び「ラグナドール 妖しき皇帝と終焉の夜叉姫」の通期にわたる売上寄与があったものの、その他主力タイトルにおいて配信期間の経過により売上が減少したこと、加えて当連結会計年度に配信を予定していた「アスタータリクス」の配信が延期されたことに伴い、売上高は前期実績を 2,864 百万円下回り、15,899 百万円となりました。

② 営業利益について

開発・運用体制の適正化による人件費及び外注費の減少や、費用対効果を重視したプロモーションの実施による広告宣伝費の減少に加え、複数の受託タイトルを開発ポートフォリオに組み入れる等の取り組みを行った結果、営業利益は前期実績を 3,009 百万円上回り、171 百万円となりました。

③ 経常利益について

営業利益が 171 百万円となったことに加え、連結子会社である gumi Asia Pte. Ltd から剰余金の配当を受領したことに伴う受取配当金、及びその他営業外損益を勘案した結果、経常利益は前期実績を 3,947 百万円上回り、811 百万円となりました。

④ 当期純利益について

経常利益が 811 百万円となったことに加え、特別損益、及び法人税、住民税及び事業税の計上を勘案した結果、当期純利益は前期実績を 6,245 百万円上回り、862 百万円となりました。

以上